

ジャバ・ガーミンド (JG) の争議とユニクロ・キャンペーン

● 工場閉鎖で 4000 人が解雇

ジャバ・ガーミンド社は工場労働者 4000 人（80%が女性）をかかえ、タンゲラン市チクパ工場と東ジャワのマジャレンカ工場で、ユニクロをはじめ大小のブランドの製品を生産していた。ユニクロは、2012 年 10 月から 2014 年 10 月まで生産委託をおこない、ユニクロ製品は一時期生産量の 30~40%を占めていたと聞く。

チクパ工場には 2 つのジャバ・ガーミンド労働組合—FSPMI 支部（1510 人）と GSBI 支部（446 人）—が存在した。ジャバ・ガーミンド労組 FSPMI 支部は 2013 年 10 月に結成。FSPMI（インドネシア金属労働組合連盟）は、現在のインドネシアの労働運動を牽引している産業別組合である。テディ委員長によれば、最低賃金に達しない賃金、長時間労働、納期に間に合わせるための休日出勤強要という労働条件の酷さに加え、ユニクロからの生産委託後は、労働密度と生産管理が一段と厳しくなったという。また、会社は組合への嫌がらせをおこなった。労使交渉を無視したばかりでなく、2014 年 3 月、妊娠した女性 7 人を不当解雇したので抗議行動をしたところ組合のリーダー 9 人を清掃員として配置転換。不当解雇などなど数々の労働法違反があった。そして、2015 年 4 月に工場閉鎖が断行された。

ユニクロによれば、2014 年初めから品質問題や納期の遅れが生じ、警告を出したが是正されなかったので、発注量を 2014 年 4 月から徐々に減らし 10 月に取引を停止したという。ユニクロが生産を減らしていく過程で何が起きたのだろうか。会社は、7 月に 230 人、8 月から 11 月にかけて 371 人の労働者を違法解雇した。10 月にユニクロ、11 月に Trutex（英国）が注文をストップしたため会社は 12 月に資金難におちいり、1 月からは給料が遅配、2 月にはマジャレンカ工場が操業停止。3 月からジャバ・ガーミンド労組 FSPMI 支部は、機械などの資産を運び出さないように見張りながら、賃金の支払いを求めて社前に座り込み抗議行動をするが、4 月には停職。会社は 4 月 22 日に破産宣告をした。

管財人は、労働者の退職日を 2015 年 6 月 21 日と決め、労働移住省は、労働者が 2015 年 3 月から 6 月までの賃金、退職金など、全員で総額 1000 万ドルを受け取る権利があると定めた。管財人は資産売却をおこない労働者への支払いをしたが、その額は 450 万ドルと総額の半分以下、残りの 550 万ドルが未払いとなった。会社の資産は残されていないのでバイヤーのユニクロなどのブランドに、支払いを生産量に応じて負担してほしいというのが労働者の要求だ。失業した女性労働者の多くは 40 歳をすぎていることもあり、再就職先が見つからず、住むところを失い、子どもの学費を払えず借金を重ねている。未払いの賃金は、彼女たちと家族にとって必要なものだ。

● 国際ユニクロ・キャンペーン

ユニクロにこの窮状を知ってもらおうと、ジャバ・ガーミンド労組は、ユニクロに書簡を送ったが、ユニクロからの回答はすでに取りが終了しているという冷淡なものだった。そこ

で、組合は、FWF（フェア・ウェア・ファウンデーション）に苦情を訴え、その結果、ジャック・ウォルフスキンス社（ドイツ）が 2016 年末に 550 万ドルの一部を支払った。

この争議を支援するユニクロ・キャンペーンは、2017 年初めからクリーン・クローズ・キャンペーン（CCC）が音頭をとりヨーロッパ、アジアで繰り広げられている。CCC は、衣料産業における労働条件の改善を目指し 1989 年に設立。世界で 250 の労働組合・労働 NGO・市民団体などが加盟している、アパレルのサプライチェーン問題に取り組む世界最大規模の民間団体だ。2016 年に組織替えをし、ヨーロッパ連合、南アジア連合、東南アジア連合、東アジア連合（CCC 東アジア）に別れ、CCC 東アジアは香港・日本・韓国・台湾の 16 団体が加盟している。ユニクロ・キャンペーンは、「労働者にお金を支払ってください」というスローガンのもとに、ウェブサイトからのユニクロへの署名活動を展開し、3 万通近くの抗議文が世界各国から送られた。2017 年 3 月、11 月、12 月には、インドネシア、ヨーロッパ各国、香港、日本のユニクロ店舗前で世界同時抗議行動が繰り広げられた。

「契約が終了した後のサプライチェーンに関しては責任がない。」と断言するユニクロの態度は、工場閉鎖直後から一貫している。しかしながら、国際キャンペーンが影響したのか、ユニクロからジャカルタで話し合いをしてもよいという連絡があり、2017 年 7 月 4 日に会談がもたれたが、ユニクロから労働者の再雇用に協力するという申し出があった以外は、事態の進展はなかった。

約束された 2 回目の会合に関しては、組合からの度重なる要求にもかかわらず、2017 年 10 月から返信は全くなかったが、今年 1 月 18 日付の声明でユニクロは、契約を終了したサプライチェーンに関しては一切の責任がないという従来の主張と人道的見地から別のサプライチェーンで再雇用という提案を繰り返した。

2 月 22 日夜、CCC はユニクロが後援しているロンドンのテイト美術館の正面玄関に「柳井正 あなたを金持ちにした労働者へお金を支払ってください」とのメッセージを 3 か国語で大きく照射した。4 月 22 日、倒産して 3 年目に労働者たちは柳井社長の自宅に手書きの 70 通の手紙を郵送した。70 通の手紙は日本語訳されていて下記のリンクから読める。

https://drive.google.com/open?id=1wXz8-n2IpKod6EwD_14yVeGA6OTxoEBc

7 月にはユニクロとスポンサー契約を結んだテニス界のビッグスター、ロジャー・フェデラーに 1 万通以上の手紙を届けた。そして、今回、インドネシアからテディ JG 労組委員長、女子労働者を含む 3 人、オランダの CCC 本部から 1 人、CCCEA から 1 人と総勢 5 人が、10 月 7 日から 14 日まで来日する。「柳井社長と交渉したい、毎日でも抗議行動をしたい」という JG 労働者の必死の思いを受けて、日本の労働組合・市民団体は抗議行動と報告会などを計画している。この抗議行動は、世界にも呼びかけられていて、その第一弾として、9 月 27 日、アムステルダムに開店したユニクロ旗艦店の前で要請行動がおこなわれた。

JG 労組はユニクロに交渉を申し入れているが、9 月 30 日現在、まだ返信はない。

*ユニクロ・キャンペーンについての仔細は下記のウェブをごらんください。

<http://www.y-ar.org/ja/m-action-jp/2017-09-09-05-52-21/m-uniqlo-campaign.html>